科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ギター） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	野村大輔	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、ディレクター		

【科目の目的】

課題曲を用いて、曲の歴史的背景・演奏法・曲作り・フレージングを中心に学び、音楽スキルの向上を目的とする。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。
音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。

【到達目標】

A.課題曲3曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲3曲の歴史的背景について理解する		課題曲1曲の歴史的背景について理解する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		課題曲1曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる		課題曲1曲を自身のレパートリーとすることができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

エレキギターバッキングのアイデア″即戦力″135

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する□

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ベース） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	満園庄太郎	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

課題曲を用いて、曲の歴史的背景・演奏法・曲作り・フレージングを中心に学び、音楽スキルの向上を目的とする。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。
音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。

【到達目標】

A.課題曲3曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲3曲の歴史的背景について理解する		課題曲1曲の歴史的背景について理解する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		課題曲1曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる		課題曲1曲を自身のレパートリーとすることができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

はじめてのジャズベース

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ピアノ・キーボード） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	堀越昭宏	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

課題曲を用いて、曲の歴史的背景・演奏法・曲作り・フレージングを中心に学び、音楽スキルの向上を目的とする。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.課題曲3曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲3曲の歴史的背景について理解する		課題曲1曲の歴史的背景について理解する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		課題曲1曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる		課題曲1曲を自身のレパートリーとすることができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

キーボードバッキングのアイデア"即戦力"138

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ドラム） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	麻生祥一郎	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

課題曲を用いて、曲の歴史的背景・演奏法・曲作り・フレージングを中心に学び、音楽スキルの向上を目的とする。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.課題曲3曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲3曲の歴史的背景について理解する		課題曲1曲の歴史的背景について理解する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲3曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		課題曲1曲における演奏法・音色作り・フレージングができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲3曲を自身のレパートリーとすることができる		課題曲1曲を自身のレパートリーとすることができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

Progressive Steps to Syncopation for the Modern Drummer

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	河原レオ・郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

現代の音楽における録音と波形編集技術に関する知識を深める。マイクとラインでの録音手法を習得し、レコーディングのための録音手法、録音したファイルにおいて3つのエフェクトを活用してミックス技術を学ぶことで、音楽業界で通用する人材を育成する。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.現代の音楽における録音と波形編集技術の知見を得る。
B.マイクとラインでの録音手法で、レコーディングができる。
C.レコーディングしたファイルにおける３種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	現代の音楽における録音と波形編集技術の知見を得る		波形編集技術の知見を得る		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	マイクとラインでの録音手法で、レコーディングができる		ラインでの録音手法で、レコーディングができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	レコーディングしたファイルにおける３種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる		レコーディングしたファイルにおける１種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題①基礎	基礎理解	1	楽曲概論	楽曲制作理解	3	
			2	基本制作	録音技術入門		
			3	録音実習	DAW基本操作		
2	課題①旋律	旋律作成	1	制作技術	音楽理論応用	3	
			2	録音手法	マルチトラック録音		
			3	アレンジ法	エフェクト活用		
3	課題①和声	和声適用	1	作曲理論	アレンジ基礎理解	3	
			2	ミキシング	ミックスダウン概要		
			3	デモ制作	クリエイティブ実習		
4	課題①リズム	リズム設計	1	中級制作	ジャンル分析能力	3	
			2	エフェクト応用	音質改善技術		
			3	マスタリング	音楽制作倫理		
5	課題①アレンジ	アレンジ完成	1	応用制作	作曲技術習得	3	
			2	音色調整	アドバンス録音		
			3	最終調整	編集技術向上		
6	課題①ミックス	音響仕上げ	1	上級制作	中級アレンジ理解	3	
			2	録音応用	ミックスバランス理解		
			3	詳細アレンジ	制作プロセス最適化		
7	課題①完成	発表形態	1	完成形検討	第1課題曲完成	3	
			2	録音最適化	自己評価方法習得		
			3	編集技術	録音セッション管理		
8	課題②基礎	基礎理解	1	曲の仕上げ	第2課題曲概要	3	
			2	課題曲深化	音楽ソフトウェア応用		
			3	マイク技術	録音環境カスタマイズ		
9	課題②旋律	旋律作成	1	セルフプロデュース	実践的DAW操作	3	
			2	課題曲完成	構造的アレンジ法		
			3	音響知識	高度編集テクニック		
10	課題②和声	和声適用	1	プレゼン準備	アドバンスドミキシング	3	
			2	第2曲概論	作品のスタイリング		
			3	新規制作	第2課題曲制作		
11	課題②リズム	リズム設計	1	第2曲録音	クリティカルリスニング	3	
			2	第2曲技術	音響技術応用		
			3	第2曲手法	制作プロジェクト管理		
12	課題②アレンジ	アレンジ完成	1	第2曲アレンジ	第2課題曲完成	3	
			2	第2曲理論	評価とフィードバック		
			3	第2曲ミキシング	ポートフォリオ制作		
13	課題②ミックス	音響仕上げ	1	第2曲デモ	前期総括と評価	3	
			2	第2曲中級	成果発表準備		
			3	第2曲エフェクト	自己分析と目標設定		
14	課題②完成	発表形態	1	第2曲マスタリング	成果のドキュメンテーション	3	
			2	第2曲応用	成果発表技術		
			3	第2曲音色	フィードバックの統合		
15	まとめ	総仕上げ	1	第2曲最終調整	次期準備と計画	3	
			2	まとめ準備	総合評価と自己改善		
			3	成果発表	コースの総括と反省		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	杉本 清隆・松川かの子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

様々なジャンルの曲を題材に、読譜力を身につけ、演奏に対応する知識とスキルの向上を目指す。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A. ３種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する。
B. ３曲の課題曲の中で即座に対応できる読譜力を身につける。
C. 対応力のある演奏スタイルに関する知見を得る。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	３種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する		３種類の音楽ジャンルを把握する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	３曲の課題曲の中で即座に対応できる読譜力を身につける		１曲の課題曲の中で読譜力を身につける		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	対応力のある演奏スタイルに関する深い知見を得る		対応力のある演奏スタイルに関する深い知見を得る		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)
平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題①基礎演奏	譜面読譜	1	リズム習得	リズムを正確に刻める	3	
			2	ピッチ練習	ピッチの正確性を保つ		
			3	課題曲演奏	課題曲①の読譜ができる		
2	課題①アドリブ	譜面読譜	1	アドリブ基礎	アドリブソロを導入する	3	
			2	リズム変化	リズムパターンを変える		
			3	構成理解	曲の構成を理解する		
3	コード進行学習	譜面解析	1	インプロ基礎	コード進行で即興する	3	
			2	コード認識	リズムの応用力を高める		
			3	即興演奏	ピッチで表現力を増す		
4	課題②基礎演奏	譜面読譜	1	リズム応用	課題曲②の読譜ができる	3	
			2	ピッチ精度	アドリブで個性を出す		
			3	課題曲理解	リズムのバリエーションを作る		
5	課題②アドリブ	譜面読譜	1	アドリブ応用	コードに合わせて即興する	3	
			2	リズム創造	リズムの深い理解を得る		
			3	構成応用	ピッチで感情を伝える		
6	コード進行学習	譜面解析	1	インプロ進化	課題曲③の読譜ができる	3	
			2	コード活用	アドリブの技術を向上させる		
			3	即興応用	リズムで創造性を示す		
7	課題③基礎	譜面読譜	1	リズム習熟	コード進行に沿った即興	3	
			2	ピッチ完璧	リズム感を完璧にする		
			3	課題曲精緻	ピッチで完全なハーモニーを作る		
8	課題③アドリブ	譜面読譜	1	アドリブ熟練	課題曲④の読譜ができる	3	
			2	リズム独創	アドリブで新たなフレーズを作る		
			3	構成習熟	リズムで曲の雰囲気を変える		
9	コード進行学習	譜面解析	1	インプロ習熟	コードを使った即興の洗習	3	
			2	コード達人	リズムの細かいニュアンスをつかむ		
			3	即興熟練	ピッチで繊細な表現をする		
10	課題④基礎演奏	譜面読譜	1	リズム達人	課題曲⑤の読譜ができる	3	
			2	ピッチ卓越	アドリブで曲に深みを与える		
			3	課題曲完成	リズムの高度なバリエーションを開発する		
11	課題④アドリブ	譜面読譜	1	アドリブ達人	コードの知識を即興に活かす	3	
			2	リズム創作	授業の内容を総復習する		
			3	構成完成	実技試験に向けて練習する		
12	コード進行学習	譜面解析	1	インプロ完成	フィードバックを活用する	3	
			2	コード理解	課題曲すべてを完全に読譜できる		
			3	即興創作	アドリブの自由度を高める		
13	課題⑤基礎演奏	譜面読譜	1	総合評価	リズムとピッチの統合	3	
			2	実技試験	各課題曲の即興を追求		
			3	フィードバック	演奏技術の総合評価		
14	課題⑤アドリブ	譜面読譜	1	リズム確認	アドリブで感情を表現	3	
			2	ピッチ検証	コード進行の理解を深める		
			3	課題曲添削	試験曲での表現力を確認		
15	前期のまとめ	譜面解析	1	試験準備	演奏における自己表現を磨く	3	
			2	実技実施	アンサンブルでの調和を図る		
			3	評価フィードバック	即興技術の応用を拡げる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	永田範正・松川かの子・郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

各楽器の演奏と音楽制作のスキル向上を図りつつ、オリジナリティを養うトレーニングを継続する。他のミュージシャンと演奏することを意識し臨機応変に対応するスキルを身につける。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A. ３種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する。
B. ３曲の課題曲の中で即座に対応できるインプロヴィゼーション力を身につける。
C. ３曲の課題曲に関して、周りのミュージシャンとコミュニケーションをとりながら、相手がどんな事を考えているかなどを察知して、対応力のあるスタイルでの演奏ができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	３種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する		３種類の音楽ジャンルを把握する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	３曲の課題曲の中で即座に対応できるインプロヴィゼーション力を身につける		１曲の課題曲の中でインプロヴィゼーション力を身につける		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	３曲の課題曲に関して、周りのミュージシャンとコミュニケーションをとりながら、相手がどんな事を考えているかなどを察知して、対応力のあるスタイルでの演奏ができる		１曲の課題曲に関して、周りのミュージシャンとコミュニケーションをとりながら、相手がどんな事を考えているかなどを察知して、対応力のあるスタイルでの演奏ができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題①基礎演奏	演奏理論	1	リズム習得	リズムを正確に刻める	3	
			2	ピッチ練習	ピッチの正確性を保つ		
			3	課題曲演奏	課題曲①を演奏できる		
2	課題①アドリブ	演奏手法	1	アドリブ基礎	アドリブソロを導入する	3	
			2	リズム変化	リズムパターンを変える		
			3	構成理解	曲の構成を理解する		
3	コード進行学習	演奏解析	1	インプロ基礎	コード進行で即興する	3	
			2	コード認識	リズムの応用力を高める		
			3	即興演奏	ピッチで表現力を増す		
4	課題②基礎演奏	演奏理論	1	リズム応用	課題曲②を演奏できる	3	
			2	ピッチ精度	アドリブで個性を出す		
			3	課題曲理解	リズムのバリエーションを作る		
5	課題②アドリブ	演奏手法	1	アドリブ応用	コードに合わせて即興する	3	
			2	リズム創造	リズムの深い理解を得る		
			3	構成応用	ピッチで感情を伝える		
6	コード進行学習	演奏解析	1	インプロ進化	課題曲③を演奏できる	3	
			2	コード活用	アドリブの技術を向上させる		
			3	即興応用	リズムで創造性を示す		
7	課題③基礎	演奏理論	1	リズム習熟	コード進行に沿った即興	3	
			2	ピッチ完璧	リズム感を完璧にする		
			3	課題曲精緻	ピッチで完全なハーモニーを作る		
8	課題③アドリブ	演奏手法	1	アドリブ熟練	課題曲④を洗習させる	3	
			2	リズム独創	アドリブで新たなフレーズを作る		
			3	構成習熟	リズムで曲の雰囲気を変える		
9	コード進行学習	演奏解析	1	インプロ習熟	コードを使った即興の洗習	3	
			2	コード達人	リズムの細かいニュアンスをつかむ		
			3	即興熟練	ピッチで繊細な表現をする		
10	課題④基礎演奏	演奏理論	1	リズム達人	課題曲⑤を練習する	3	
			2	ピッチ卓越	アドリブで曲に深みを与える		
			3	課題曲完成	リズムの高度なバリエーションを開発する		
11	課題④アドリブ	演奏手法	1	アドリブ達人	コードの知識を即興に活かす	3	
			2	リズム創作	授業の内容を総復習する		
			3	構成完成	実技試験に向けて練習する		
12	コード進行学習	演奏解析	1	インプロ完成	フィードバックを活用する	3	
			2	コード理解	課題曲の完璧な演奏		
			3	即興創作	アドリブの自由度を高める		
13	課題⑤基礎演奏	演奏理論	1	総合評価	リズムとピッチの統合	3	
			2	実技試験	各課題曲の即興を追求		
			3	フィードバック	演奏技術の総合評価		
14	課題⑤アドリブ	演奏手法	1	リズム確認	アドリブで感情を表現	3	
			2	ピッチ検証	コード進行の理解を深める		
			3	課題曲添削	試験曲での表現力を確認		
15	前期のまとめ	演奏解析	1	試験準備	演奏における自己表現を磨く	3	
			2	実技実施	アンサンブルでの調和を図る		
			3	評価フィードバック	即興技術の応用を拡げる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	Gt:早川治 / Key:藤田美保	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

9種類のキーにおいてコード系楽器の基本的な演奏技術を習得する。。その後、楽譜の読解能力を向上させ、音感やハーモニー感覚を発展させるために、関連する実践的な音楽知識やコードについても習得する。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A. ９種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。
B・９種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。
C・９種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	９種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける		４種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	９種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる		４種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	９種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける		４種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	パワーコード1	パワーコード習得	1	パワーコード導入	パワーコード演奏ができる	3	
			2	コード弾き課題	1年次技術の復習		
			3	技術復習1	リズム感の向上		
2	パワーコード2	テクニック復習	1	パワーコード応用	パワーコード応用ができる	3	
			2	コード進行演奏	テクニックの確認		
			3	技術復習2	演奏の自信構築		
3	メジャーコード	メジャーコード習得	1	メジャーコード基礎	メジャーコードの把握	3	
			2	5弦ルート練	5弦6弦ルート理解		
			3	転回形習得1	転回形の実践		
4	マイナーコード	マイナーコード習得	1	マイナーコード基礎	マイナーコードの理解	3	
			2	6弦ルート練	異なる運指での演奏		
			3	転回形習得2	音の流れの認識		
5	アドリブ初級	ペンタアドリブ1	1	ペンタトニック基礎	ペンタトニックの利用	3	
			2	スローテンポ練	アドリブ基本技法		
			3	アドリブ導入1	スローテンポ対応		
6	アドリブ中級	ペンタアドリブ2	1	ペンタトニック応	ペンタトニックの応用	3	
			2	リズム変更伴奏	即興演奏の向上		
			3	アドリブ導入2	リズム変化の実践		
7	特殊コード1	演奏技術向上	1	min7(♭5)進行	min7(♭5)活用ができる	3	
			2	コード進行演習1	複雑なコード進行対応		
			3	アレンジ課題1	アレンジ能力の向上		
8	特殊コード2	演奏技術向上	1	7(9)コード進行	7(9)コード応用ができる	3	
			2	コード進行演習2	発展的アレンジ技法		
			3	アレンジ課題2	クリエイティブな表現		
9	分数コード	演奏技術向上	1	分数コード理解	分数コードの正確性	3	
			2	テンションコード1	テンションコード理解		
			3	正確弾き課題	複数コード演奏能力		
10	ヴォイシング	演奏技術向上	1	ヴォイシング理解	ヴォイシングの実践	3	
			2	自己響き作成	オリジナリティの追求		
			3	テンションコード2	個性的なサウンド創出		
11	課題曲コード進行	音楽理論の理解	1	日本曲コード1	日本曲コード進行理解	3	
			2	アップテンポ伴奏	アップテンポへの対応		
			3	コード進行習熟	曲の構造把握		
12	課題曲コード進行	音楽理論の理解	1	日本曲コード2	日本曲応用演奏能力	3	
			2	アップテンポ応用	速いテンポの演奏技術		
			3	表現力向上	流暢な演奏の習得		
13	課題曲コード進行	音楽理論の理解	1	日本曲コード3	リズムの多様性	3	
			2	左右手リズム	コンピング技術の向上		
			3	コンピング応用	即興とアレンジの融合		
14	リズムトレーニン	演奏技術向上	1	総まとめ実施1	総合的な演奏能力	3	
			2	リズム分解応用	右手左手の独立性		
			3	自由演奏展開	高度なリズムの理解		
15	まとめ	総復習と試験	1	総まとめ実施2	試験曲の演奏能力	3	
			2	全体試験準備	総合評価への対応		
			3	曲演奏試験	表現力の最終確認		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ギター） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	恒枝賢治	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

基礎的な演奏力、専攻分野の奏法に基づいた演奏者としての知識を活かし、演奏と音楽制作のスキル向上、オリジナリティを養うトレーニングを継続する。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している。
B.課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。
C.学外発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している		課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	学外発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める		リードシート譜面を自作できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	１年次復習	１年次復習	1	１年次復習	基礎知識の確認ができる	3	
			2	確認テスト	前年の内容を復習できる		
			3	基本技術習得	学習の自己評価ができる		
2	カポタスト法	開放弦演奏	1	カポ使用法	カポタスト使用法を理解	3	
			2	異なるヴォイシング	ヴォイシングの変更ができる		
			3	弾き比べ実践	演奏技術が向上する		
3	16分音符法	カッティング習得	1	16分カッティング	16分音符カッティングができる	3	
			2	リズム強化	リズム感が養われる		
			3	テンポ調整	精度の高い演奏が可能		
4	スケール	スケール理解	1	スケール理解	スケールの基本を習得	3	
			2	ミクソリディアン	ミクソリディアンスケールが弾ける		
			3	ドリアン習得	ドリアンスケールが弾ける		
5	メロディバッキン	バッキング法	1	単音ミュート	単音ミュート技術が身につく	3	
			2	メロディバッキング	メロディとのバッキングが理解		
			3	バッキング応用	アンサンブル力が向上する		
6	作曲のコツ	メロディライティング	1	作曲のコツ	基本的な作曲技法を理解	3	
			2	リードシート作成	リードシートが書けるようになる		
			3	実践作曲指導	実際に作曲ができる		
7	譜面作成	リードシート理解	1	１曲目作曲	個別指導による技術向上	3	
			2	テクニック指導	１曲目作成の自信がつく		
			3	作品完成度	アドバイスを反映できる		
8	１曲目指導１	作品制作	1	１曲目レビュー	１曲目のブラッシュアップ	3	
			2	改善提案	具体的な改善点が見える		
			3	２曲目作曲	２曲目の作曲に着手		
9	１曲目指導２	作品制作	1	創作性強化	クリエイティブ性が育つ	3	
			2	２曲目レビュー	２曲目作成で応用力アップ		
			3	作曲アドバイス	フィードバックを活用する		
10	２曲目指導１	作品制作	1	改善実践	２曲目の質が向上する	3	
			2	３曲目作曲	３曲目の作曲を始める		
			3	クリエイティブ性	クリエイティブスキルが磨かれる		
11	２曲目指導２	作品制作	1	３曲目レビュー	３曲目の練習と改善	3	
			2	パンチ処理	パンチイン・アウトができる		
			3	レコーディング技術	録音技術に習熟する		
12	３曲目指導１	作品制作	1	実践レコーディング	パンチ処理での編集力向上	3	
			2	楽曲発表準備	デモ制作への理解を深める		
			3	デモ制作	パフォーマンスの準備ができる		
13	３曲目指導２	作品制作	1	発表スキル	発表に向けた演奏ができる	3	
			2	楽曲発表本番	作品発表の経験を積む		
			3	パフォーマンス評価	パフォーマンスの自己評価		
14	デモ発表１	パンチイン技術	1	フィードバック応用	フィードバックを具体化	3	
			2	パンチイン習得	パンチイン・アウトができる		
			3	パンチアウト実践	録音編集技術の実践力		
15	まとめ	デモ発表	1	修正技術	録音編集技術の実践力	3	
			2	デモンストレーション	デモ制作のスキルアップ		
			3	発表会準備	発表内容のブラッシュアップ		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ベース） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	永田範正	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

基礎的な演奏力、専攻分野の奏法に基づいた演奏者としての知識を活かし、演奏と音楽制作のスキル向上、オリジナリティを養うトレーニングを継続する。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している。
B.課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。
C.学外発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している		課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	学外発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める		リードシート譜面を自作できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	フィンガー奏法	奏法習得	1	フィンガー奏法	16分音符フィンガー習得	3	
			2	16分音符理解	正確なリズム感		
			3	フィンガー練習	柔軟な指使い		
2	チャーチモード	モードスケール学習	1	チャーチモード理解	チャーチモード認識	3	
			2	2ポジション練習	2ポジション演奏		
			3	指の柔軟性向上	モード間移動		
3	ピック奏法	奏法習得	1	ピック奏法	ピック奏法の精度	3	
			2	16分音符応用	リズムパターン理解		
			3	ピック練習	ピックコントロール		
4	分数コード学習	和音の理解	1	オルタード理解	オルタードテンション把握	3	
			2	分数コード理解	分数コード演奏		
			3	分散和音練習	和音分散技術		
5	スラップ奏法	奏法習得	1	スラップ奏法	スラップ奏法基礎	3	
			2	16分音符応用	16分リズムの精度		
			3	スラップ練習	スラップの応用		
6	初見演奏１	読譜初級	1	読譜練習	スローテンポ読譜	3	
			2	スローテンポ理解	初見演奏の基本		
			3	初見演奏練習	ミディアムテンポ適応		
7	初見演奏２	読譜上級	1	読譜練習	アップテンポ読譜	3	
			2	アップテンポ演奏	高速初見演奏		
			3	初見演奏向上	読譜スキル向上		
8	ベースライン１	フレージング	1	ベースライン作り	ルート中心ベース作成	3	
			2	ルート理解	初見ベースライン技術		
			3	初見演奏練習	根音強化の応用		
9	ベースライン２	フレージング	1	ベースライン作り	セクション意識の発展	3	
			2	セクション意識	ベースラインの洗練		
			3	初見演奏向上	演奏アプローチ多様化		
10	曲ブラッシュアッ	フレージング	1	ブラッシュアップ1	セクション別演奏力	3	
			2	自作曲強化	自作曲ブラッシュアップ		
			3	課題曲練習	課題曲の改善		
11	曲ブラッシュアッ	フレージング	1	ブラッシュアップ2	独自性の表現	3	
			2	演奏力向上	更なるブラッシュアップ		
			3	曲完成度向上	完成度の向上		
12	演奏発表評価	発表スキル	1	理解度チェック	発表用演奏力	3	
			2	演奏発表	理解度チェックでの達成		
			3	フィードバック受容	フィードバックの反映		
13	問題点修正	フレージング	1	問題点修正	問題点の洗い出し	3	
			2	演奏改善	実践的修正能力		
			3	自己評価能力向上	演奏課題の改善		
14	アドリブ練習	フレージング	1	アドリブ演奏	アドリブ能力向上	3	
			2	速いパッセージ	速いパッセージ習得		
			3	即興演奏	即興演奏の自信		
15	まとめ	前期内容振り返り	1	まとめ	自己評価の向上	3	
			2	学習内容の復習	総復習での理解確認		
			3	スキル統合	全体の演奏技術統合		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ピアノ・キーボード） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	杉本 清隆	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

基礎的な演奏力、専攻分野の奏法に基づいた演奏者としての知識を活かし、演奏と音楽制作のスキル向上、オリジナリティを養うトレーニングを継続する。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している。
B.課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。
C.学外発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している		課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	学外発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める		リードシート譜面を自作できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	バラード理解	ボイシング理解	1	バラード理解	ピアノでバラード理解	3	
			2	ボイシング法	適切なボイシング習得		
			3	ピアノバッキング	バラードバッキング演奏		
2	バラード実演	ピアノ独奏習得	1	単独バラード演	ピアノ単独バッキング技	3	
			2	バッキング応用	バラードバッキング応用		
			3	ピアノ技術実践	バンド内バッキング演奏		
3	バンド演奏	演奏習得	1	バンド演奏法	Rock曲演奏への理解	3	
			2	共演バッキング	Rockピアノアプローチ法		
			3	演奏調整能力	Rockバッキングパターン		
4	Rock理解	Rock理解	1	Rock理解	Rockパターンバッキング	3	
			2	アプローチ法	シンセ使用の演奏技術		
			3	Rockバッキング	オルガンストリングス応用		
5	Rock実演	Rock風バッキング	1	Rockパターン演	Funk曲の理解深化	3	
			2	バッキング実践	Funkピアノアプローチ法		
			3	多様性理解	Funkバッキングパターン		
6	Rockシンセ	音色エディット	1	シンセRock演	Funkパターンバッキング	3	
			2	オルガン使用法	Clavinet演奏の習得		
			3	実演技術向上	エレクピアノでFunk演奏		
7	Funk理解	バッキング法	1	Funk理解	Jazz曲演奏への理解	3	
			2	Funkアプローチ	Jazzピアノアプローチ法		
			3	Funkバッキング	Jazzバッキングパターン		
8	Funk実演	ピアノスタイル	1	Funkパターン演	Jazzパターンバッキング	3	
			2	演奏多様性	EPでJazzバッキング学習		
			3	Clavinet演奏	ボイシングの差異理解		
9	Funkシンセ	シンセ応用	1	EP使用技術	メジャーアドリブ演奏	3	
			2	Jazz理解	マイナーアドリブ演奏		
			3	Jazzアプローチ	アドリブ技術の向上		
10	Jazz理解	ピアノ演奏	1	Jazzバッキング	自由曲発表会の準備	3	
			2	Jazzパターン演	自由曲での演奏実施		
			3	バッキング実践	習得技術の授業内発表		
11	Jazz実演	Jazz風バッキング	1	EPボイシング	自由曲選定の理解	3	
			2	Jazzボイス理解	バッキングスタイル適用		
			3	メジャーアドリブ	アンサンブルでの同調		
12	Jazzボイシング	ボイシング理解	1	アドリブ技術	アプローチ法の応用	3	
			2	即興演奏法	複数バッキング習得		
			3	マイナーアドリブ	シンセサイザー演奏		
13	メジャーアドリブ	ワンコードアドリブ	1	アドリブ応用	バンド演奏の調和	3	
			2	即興技術向上	シンセ応用技術		
			3	総合技術発表	ストリングス演奏法		
14	マイナーアドリブ	ワンコードアドリブ	1	自由曲準備	バッキング技術の展開	3	
			2	発表会実施	エレクトリックピアノ活用		
			3	演奏自己表現	Jazzの理解拡大		
15	まとめ	自由曲発表	1	技術総合評価	バッキングの深化	3	
			2	即興演奏応用	ピアノでJazz展開		
			3	授業総括修正	エレクピアノバッキング		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース（ドラム） 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	杉本 清隆	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

基礎的な演奏力、専攻分野の奏法に基づいた演奏者としての知識を活かし、演奏と音楽制作のスキル向上、オリジナリティを養うトレーニングを継続する。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している。
B.課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。
C.学外発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲３曲に関して、基礎的演奏力を体得している		課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲３曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	学外発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める		リードシート譜面を自作できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ウォームアップ	ウォームアップ習得	1	ウォームアップ	ウォーミングアップ実施能力	3	
			2	スタジオ活用	スタジオ利用の自立		
			3	バスドラ基礎	バスドラ基本技術習得		
2	ルーディメンツ	バスドラ基礎学習	1	バスドラ強化	バスドラ技術強化	3	
			2	ダブルペダル	ダブルペダル実用化		
			3	ツインペダル	ツインペダル演奏能力		
3	ペダル強化	ペダル技術向上	1	疑問解消	ヒアリング技能向上	3	
			2	ドラムアレンジ	疑問点自己解消能力		
			3	ビート作成	ドラムアレンジ作成		
4	疑問点ヒアリング	アレンジ技法学習	1	アレンジ技法	ビート創作技能	3	
			2	クリック合わせ	アレンジ技法の理解		
			3	演奏練習	クリック演奏の精度		
5	ビート作成法	アレンジ技法	1	マイナスワン	オリジナル演奏の同期	3	
			2	演奏調整	マイナスワン演奏技術		
			3	中間発表	中間発表での自己表現		
6	クリック演奏１	演奏手法向上	1	理解度チェック	理解度自己チェック能力	3	
			2	グルーヴ演奏	グルーヴ演奏の連続性		
			3	継続性習得	継続性を習得できる		
7	マイナスワン１	演奏手法向上	1	キメ作成	キメでの演奏安定性	3	
			2	演奏技法	演奏テクニック向上		
			3	クリック演奏２	クリック演奏の応用力		
8	理解度チェック	中間の振り返り	1	演奏精度向上	精度高い演奏実現	3	
			2	マイナスワン２	マイナスワン演奏応用		
			3	演奏調整２	演奏調整の高度化		
9	グルーヴ演奏法	演奏手法向上	1	機材紹介	機材知識の習得	3	
			2	準備理解	レコ準備の計画性		
			3	レコーディング	レコーディング技術		
10	キメのテクニック	演奏手法向上	1	発表準備	発表内容の確定	3	
			2	機材活用	機材運用スキル		
			3	レコーディング２	レコーディング応用		
11	クリック演奏２	演奏手法向上	1	発表技法	発表スキル向上	3	
			2	前期まとめ	前期内容の総括		
			3	成長評価	自己成長の評価		
12	マイナスワン２	演奏手法向上	1	技術定着	技術定着度チェック	3	
			2	アレンジ応用	アレンジの応用展開		
			3	ビート応用	ビート作成の高度化		
13	機材紹介	機材と録音準備	1	アレンジ完成	アレンジの完成度向上	3	
			2	マイナスワン３	マイナスワン演奏の習熟		
			3	演奏確認	演奏調整の高度技術		
14	レコーディング	実際の録音・発表	1	機材操作	機材操作の習得	3	
			2	本番準備	本番に向けた準備力		
			3	発表演出	発表の演出計画		
15	前期まとめ	総合的な復習	1	録音技術	録音技術の実践	3	
			2	発表対応	発表に向けた対応力		
			3	総括評価	期末総括能力		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

3つの異なる音楽ジャンルに合わせた作曲技術を学び、さらに編曲技術を習得する。DAWデータ内の任意のトラックに少なくとも1つのエフェクトを適用し、オーディションやコンテストに参加することで、さらにスキルアップを目指す。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.　３種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること
B・３種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること
C・DAWデータの任意のトラックに最低１種類のエフェクトを適用し楽曲を提出できる

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	３種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける		１種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	３種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること		１種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	DAWデータの任意のトラックに最低１種類のエフェクトを適用し楽曲を提出できる		DAWソフトにてプラグインエフェクトをかけることができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題⑥基礎	基礎理解	1	課題曲⑥紹介	課題曲⑥の概要理解	3	
			2	基本制作法	基本的構造把握		
			3	楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題⑥旋律	旋律作成	1	課題曲⑥分析	課題曲⑥の解析技法習得	3	
			2	コード進行	リズムの基礎知識		
			3	リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題⑥和声	和声適用	1	課題曲⑥練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2	メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3	アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題⑥リズム	リズム設計	1	課題曲⑥応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2	楽器選定	コード構築能力習得		
			3	ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題⑥完成	初稿完成	1	課題曲⑥発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2	評価方法	楽曲評価基準知識		
			3	フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題⑦導入	テーマ性	1	課題曲⑦紹介	課題曲⑦の概要理解	3	
			2	再構築法	応用的構造把握		
			3	エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題⑦テクニック	楽器配置	1	課題曲⑦分析	和声の拡張知識習得	3	
			2	録音技法	テクスチャー理解強化		
			3	ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題⑦構造	曲構成	1	課題曲⑦練習	複雑メロディ作成能力	3	
			2	進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3	サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題⑦編曲	編曲進行	1	課題曲⑦応用	楽曲発表の準備能力	3	
			2	和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3	テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題⑦評価	自己評価	1	課題曲⑦発表	リズムとメロディ統合	3	
			2	曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3	ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題⑧発展	スキル向上	1	課題曲⑧紹介	楽曲全体の流れ理解	3	
			2	音域活用	リスニング技法習得		
			3	モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題⑧高度技法	テクニカルな作曲	1	課題曲⑧分析	楽曲の表現力向上策	3	
			2	実践的評価	音色選択の基本知識		
			3	リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題⑧楽器編	音色選択	1	課題曲⑧改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2	音色調整	アレンジの最終調整		
			3	エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題⑧マスタリン	DAW技術	1	課題曲⑧完成	マスタリングの基礎	3	
			2	最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3	マスタリング	コードの応用技法		
15	課題⑧公開	総仕上げ	1	課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2	ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3	フィイナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

音楽制作において大事な、絶対音感と相対音感の理解を深め、相対音感に基づくハーモニーの感覚を習得する。さらに、移動ド唱法についても理解を深める。

【科目の概要】

デビューをめざして各楽器の演奏、音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやライブ活動等に積極的に参加。

【到達目標】

A.絶対音感と相対音感について理解する
B.相対音感に基づくハーモニーの感覚が理解できる
C.移動ド唱法が理解できる

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	絶対音感と相対音感について深く理解する		絶対音感と相対音感についてやや理解する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	相対音感に基づくハーモニーの感覚が深く理解できる		相対音感に基づくハーモニーの感覚が理解できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	移動ド唱法で実演ができる		移動ド唱法が理解できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内課題、レポートなどで行う。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	音感養成	課題の理解	1	楽譜読解	楽譜基礎が読める	3	
			2	音感練習	絶対音感が身につく		
			3	歌唱エクササイズ	簡単な歌が歌える		
2	音感養成	エクササイズ	1	楽譜応用	楽譜読解が早くなる	3	
			2	音感向上	絶対音感が認識できる		
			3	即興歌唱	複数の歌を覚える		
3	音感養成	エクササイズ	1	楽譜熟練	楽譜の詳細が理解できる	3	
			2	絶対音感	絶対音感が正確になる		
			3	歌による学習	歌で表現ができる		
4	音感養成	エクササイズ	1	楽譜深化	楽譜がすらすら読める	3	
			2	音感自然化	絶対音感で即応できる		
			3	表現力強化	異なるジャンルを歌う		
5	音感養成	エクササイズ	1	楽譜洞察	楽譜が完璧に読める	3	
			2	音感確立	絶対音感を自在に使う		
			3	創造的表現	感情を込めて歌える		
6	音感養成	エクササイズ	1	楽譜解釈	音程の差を聞き分ける	3	
			2	絶対音感精緻	正確な音程を歌える		
			3	歌との一体化	音程トレーニングができる		
7	音感養成	エクササイズ	1	楽譜技術	音程を完璧に認識する	3	
			2	音感養成	複雑な音程を理解する		
			3	表現の自由度	音程トレーニングを自主的に行う		
8	音感養成	エクササイズ	1	楽譜の洗練	音程の正確な認識ができる	3	
			2	音感の研ぎ澄まし	独特な音程を識別できる		
			3	感情表現と音感	音程を用いた即興ができる		
9	音感養成	エクササイズ	1	読譜力向上	難易度の高い音程が分かる	3	
			2	音感自在化	音程を使った表現が豊かになる		
			3	創造的な歌唱	音程を活かした独自の歌が歌える		
10	音感養成	エクササイズ	1	楽譜の完全理解	音程の微妙な変化を感じ取る	3	
			2	音感と即興	音程を応用した演奏ができる		
			3	歌の内面化	音程で感情を伝えられる		
11	音感養成	エクササイズ	1	音読の達人	音程聞き分けの精度が上がる	3	
			2	音感の極致	音程を用いた創作ができる		
			3	歌と即興結合	音程とリズムが融合できる		
12	音感養成	エクササイズ	1	音程理解	音程を自由に操れる	3	
			2	音程認識	複雑な音程変化を捉えられる		
			3	聞き取り強化	音程に基づいた即興創作		
13	音程聴音	課題の理解	1	音程の比較	音程を活かした独自表現	3	
			2	相対音感	音程聞き分けのスキル向上		
			3	聞き取り練習	音程に敏感になる		
14	音程聴音	エクササイズ	1	音程感知	音程で感情を表現する	3	
			2	音程記憶	音程を巧みに使いこなす		
			3	聞き取り精度向上	音程の微細な違いを識別		
15	音程聴音	エクササイズ	1	音程の応用	音程を使ったアレンジができる	3	
			2	音程と表現	音程を完全に理解できる		
			3	制限時間内での聞き取	制限時間内での聞き取りができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等